

# 会長に安齋氏(二本松出身)

## 東京福島県人会 交代10年ぶり

首都圏在住の県内出身者でつくる東京福島県人会は二日、東京都千代田区のルポール麹町で春季総会を開き、任期満了に伴う役員改選で新会長に安齋隆副会長(七七)＝二本松市(旧安達町)出身、セブン銀行会長＝を選んだ。

五期十年務めた砂子田隆会長(八七)＝福島市出身、元消防庁長官＝は名誉会長に就いた。一内最大県人会のトップ交代は十年ぶり。安齋氏は総会の席

上、「東日本大震災と東京電力福島第一原発事故以降、親が生きていたころよりも福島に通っている。古里のために何ができるのか、会員のアイデアを形にしたい」と抱負を語った。

安齋隆東京福島県人会会長は福島民報社のインタビューに「多様性を大事にしながら会員のアイデアを形にしたい」と抱負を述べた。震災と原発事故からの復興支援については、子どもたちの教育に力を入れる考えを強調した。(聞き手・編集局長 鞍田 炎)

「会員約九百人を数える国内最大の福島県人会を束ねる。会長としての抱負を。規約の目的に掲げられている『会員相互の親睦』というのは本当に難しい。」

ことも目的としている。震災と原発事故から七年二カ月が経過した古里の現状をどう見るか。

「あえて厳しいことを申し上げるが、他方本願では駄目だ。被災したんだから当然だ、と国に予算を要求したら付けてもらえる時代ではなくなる。自立の発想による再生が求められている。自らの自治体をどうするのかを本気で考え、主体的に動き、アイデアを出したところだけに予算が付くだろう。企業側も主体的に動いている自治体だけに、そこが大事だ」

古里の復興にどう関わ

## 安齋 隆氏に聞く

### 「会員のアイデア形に」

県人会の会合に行って良かった、話ができ良かったと思われように、多様なニーズを包摂しなければならぬ。多様性を大事にしながら会員のアイデアを形にしていきたい」

郷土の発展に寄与する希望を持って進出してく

「原発事故による風評は根強い。『心の風評をどう克服するか』が問われている。農産物の話で言えば、県民自身が福島県産をどんどん食べたい」

「これだけの被害を受けて、教育の大切さを思い知った。しかし、不思議なことに現代の教育は、数学でさえ暗記になっているように思われる。夢や希望を実現するために、自分の頭で考えて解決していく力が必要で、ぜひとも子どもたちに身に付けてもらいたい。没後七十周年を迎える二本松市出身の歴史学者朝河貫一博士の功績や足跡を学んでもらう機会をつくりたい」



会長就任の抱負を語る安齋氏

安齋隆 達理銀行(現新力銀行)頭取、イトーヨーカ堂(現セブン銀行)初代社長などを歴任。全国「コンビニATM」の株主となる。19日、株主総会

安齋隆 達理銀行(現新力銀行)頭取、イトーヨーカ堂(現セブン銀行)初代社長などを歴任。全国「コンビニATM」の株主となる。19日、株主総会